

新聞・雑誌から見る現代日本

しんぶん ざっし み げん だい に ほん

■ 第31回 ■
だい かい

ケータイ小説 しょうせつ

このコーナーでは、新聞・雑誌の記事を通して現代日本事情の紹介をするとともに、日本語を教える先生方が新聞・雑誌の記事などの生教材をどうやって教材化し、中・上級の日本語の授業にどう活用できるかを提案していきます。今回はケータイ小説に関する記事を取り上げ、実際の教室活動の流れにそって質問と記事を提示しました。

「読む前に」の部分は、記事に関する背景情報を提供することで、学習者がいきなり記事を読むのではなく、読む準備ができるようにすることを目的にしています。「読む前に」の質問は、学習者が話題に関してどんな情報やイメージを持っているかを引き出したり話し合ったりすることで、記事を読む意欲を高めることを狙っています。

「読もう」の部分は、ざっと目を通して大意を把握したりキーワードを取り出したりする大まかな読み方や、表現や構文を押さえて読む精密な読み方が含まれます。この部分の質問は、読み進めていく過程で必要なストラテジーの意識化を狙っています。

「読んだ後で」の質問は、学習者が読んだ記事の内容を整理し、自分の頭の中に作り上げたイメージを表現したり記事への反応を他の学習者と交換したりできるようにすることを目的にしています。

読む前に

電車内でじっと携帯電話の画面を見つめる若者。手は全く動いていません。メールのやり取りをしているのでも携帯ゲームをしているのでもなさそうです。携帯コミックを読んでいるのでしょうか。いや、どうもケータイ小説を読んでいるようです。…このような光景は日本の通勤・通学の電車内で日常的に見かけられるようになってきています。

このケータイ小説は、6年程前に登場し、特に2007年には文芸作品のベストセラー上位を独占し、活字離れと言われる時代にあって注目を浴びました。その中でも、『恋空』という作品は書籍化され200万部以上売り上げ、その人気を受けてその後映画化もされ、昨年はテレビドラマとしても放送されました。また、『源氏物語』の現代語訳でも知られる作家の瀬戸内寂聴さんも昨年「ばーぷる」というペンネームで『源氏』をモチーフにしたケータイ小説を書き話題になりました。

ケータイ小説の特徴として、恋愛や学校生活がテーマのものが多く、読者は10代後半から20代にいたる女性が圧倒的に多く、作者も読者と

同じようにほとんどが素人であること、若者が日常話するような言葉で書かれていること、読者とのやり取りが作品に反映されやすいこと、等が挙げられます。

携帯電話を使って作品を書き作品を読むこのようなケータイ小説について、表現が稚拙で内容も単調で文学作品と呼べないという否定的な意見から、若者の活字離れに歯止めがかかり文学作品としても今までにない新しいスタイルが現われる可能性を秘めているという肯定的な意見まで、様々な意見があります。

今後一つのジャンルとして確立され定着していくのかどうか、書き手は何を思い書いているのか、今回は、書き手の一人、第1回日本ケータイ小説大賞受賞者の十和さんが書いた記事を読んでみましょう。

質問1: 後の参考ウェブサイトで紹介されているケータイ小説サイトにアクセスし、実際にどれか一つの話の最初の部分を読んでみましょう。どんな特徴がありますか。気がついた点をメモし、そのあとグループでその特徴について話し合ってみましょう。(ケータイ(携帯)小説ですが、普通のPCでも読むことができます。)

ケータイ小説の読み方

十和
——ケータイ小説作家



とわ
1980年生まれ。06年
初めて書いたケータイ小説「クリアネス」で第1回日本ケータイ小説大賞受賞。翌年から同賞の審査員を務める。「雪花」他。

現実はいまよくわからないこと知っているリアルタイムのやり取りで世界を共有

「お願いだから主人公を幸せにしてください」

初めての作品を執筆中、読者からのメッセージが届く掲示板に書き込まれた言葉だ。こういう書き込みは決してめずらしくない。まるで大切な親友を応援するように、また

は自分自身の救いを見いだそうとするように、登場人物の幸せを願う言葉を目にすることが多い。

「綺麗事」信じたい読者

ケータイ小説の主人公は10代や20代がメインで、主な読者の年齢層に当てはまる。また書き手は一般人がほとんどなので、読者にとっては身近な目線から生まれた物語だ。自分によく似た主人公に共感し、応援したくなるのは自然なこと。だけどそれだけではないような気がする。

現実が物語のようにうまくいかないことは誰でも知っていて、「愛」とか「幸せ」を日常生活で叫ぶことはほとんどない。そんな中で、「お願い

いだから主人公を幸せにしてほしい」という読者の書き込みに、「愛はどこかに存在するのだと言っしてほしい」という切実なメッセージに聞こえてくる。自分と同じ目線から主人公が見つけられる答え、そしてそこまでの過程を知りたいのだと思う。読者は作品を読んだその場で、作者にメッセージを送ることが出来る。ダイレクトなやり取りは、読者の熱い想いが冷める前に交わされるため、「でも愛なんて綺麗事だよ」と冷めた意見が入る隙間はない。

こつした声は、作者さえも予想していなかった方向に物語を進ませることがある。悲

しいストーリーを想定して書き始めたつもりが、読者の影響でハッピーエンドのお話になってしまった、なんてこともあるのだ。作者自身が「愛って存在するんだ」と気付かされたケースである。ケータイ小説において、作者と読者の関係は二人三脚のパートナーのようなものだろう

う。最大の特徴は何といっても距離の近さ。書き始めたその日から作品の世界を共有し、リアルタイムでやり取りしながら更新していくのだから。読者の声がときに行き詰まった作者の背中を押したり、新たなテーマを与えたりすることもある。ひとりきりで黙々と書くのではなく、風通しのいい環境でケータイ小説は生まれている。そしてより多くの読者に支えられた結果、書籍化され書店に並ぶ作品も誕生した。表紙に印刷されている名前は作者のものだけだが、実はあそこに載っていない「もうひとりの作者」が、数えきれないほど存在しているのだ。

ケータイ小説の未来は、今以上に自由なものであっていいと思う。そもそも、「ケータイ小説」という呼び方が定着しているけれど、小説は表現の手段のひとつであって目的ではないのだから。正解の形を求めるのではなく、「とにかく伝えたい想いがあるんだ」という純粋な部分で、読者と共鳴し合っていければと思う。



第3回日本ケータイ小説大賞の授賞式。(左から)大賞のトキ子さん、ケータイ小説が好きたという卓球選手の福原愛さん、瀬戸内寂聴さん、東京都内で9月24日、根岸基弘撮影

読もう

質問2：見出しの「読者」は、どのような読者ですか。正しいものを選んでください。

- (1) 若者と大人 (2) 10代・20代の若者 (3) 10代・20代の女性 (4) 大人

質問3: 見出しに「綺麗事」とありますが、何が綺麗事なのですか。本文の内容から判断して一番合っているものを一つ選んでください。

- (1)理想的な言葉や物語 (2)現実的な愛や幸せ (3)理想的な愛や幸せ (4)現実的な言葉や物語

質問4: 筆者のプロフィール紹介のところに、「リアルタイムのやり取りで世界を共有」とありますが、誰が世界を共有するのですか。

共有する人: _____

質問5: 本文に3回「自分」という語が出てきますが、この自分は誰のことですか。

質問6: 最後から二つ目の段落の終わりから3行目に「もうひとりの作者」とありますが、具体的に誰のことですか。15字以内で書いてください。

質問7: ケータイ小説は、従来の小説とどんな点が違いますか。本文からわかることの中から3点挙げてください。

質問8: これからのケータイ小説について筆者はどう思っていますか。その心情を表している部分を記事本文から二つ選んでください。

読んだ後で

質問9: みなさんは、ケータイ小説についてどう思いますか。賛成派と反対派の二つのグループに別れて討論してみましょう。

質問10: ケータイ小説の表記は、どうして「携帯」でも「けいたい」でもなく「ケータイ」なのでしょう。また、作家の瀬戸内寂聴さんのケータイ小説のペンネームは、どうして「ぱーぶる」なのでしょう。そして、英語purpleから来た外来語なのにどうしてカタカナ表記ではなく平仮名表記なのでしょう。一緒に考えてみましょう。

<解答例>

質問1: (省略) 質問2: (2) 質問3: (3) 質問4: ケータイ小説の作者と読者

質問5: ケータイ小説の読者 質問6: 作者とやりとりをする読者 (12字)

質問7: (1) 書き手がほとんど一般人であること (2) 読者の声がか作品に反映されやすいこと (3) 作家と読者の距離が近いこと (ほかに、読者は10代や20代が中心であること、等)

質問8: (1) 「ケータイ小説の未来は、今以上に自由なものであっていいと思う。」 (2) 「『とにかく伝えたい想いがあるんだ』という純粋な部分で、読者と共鳴し合っていければと思っている。」

質問9: (省略) 質問10: (省略)

参考ウェブサイト

- 英語ウィキペディア (英語) http://en.wikipedia.org/wiki/Mobile_phone_novel
Japan Times記事 (英語) http://search.japantimes.co.jp/cgi-bin/fl20070923x4.html
第3回ケータイ小説大賞 http://nkst.jp/pc/index.php
ケータイ小説サイト 野いちご http://no-ichigo.jp/
~ケータイ小説ランキング~ ケータイ小説王国 http://novel.mfpark.com/rank/

今回取り上げたテーマや練習案についてのご意見をお待ちしています。また、今回の記事を使って授業をしたときの様子や結果などを編集部までお寄せください。このコーナーの担当: 浜田盛男、境田徹 (関西国際センター日本語教育専門員)